

公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室  
URC資料室だより NO. 123 平成31年3月号



◆URC資料室ニュース

①平成30年度 第4回 ナレッジコミュニティ

『「世界・アジアの中の福岡」を振り返り、これからを考える』を開催します。

昨年8月、当研究所の前身である財団法人福岡都市科学研究所の設立から30周年を迎えました。そこで、今年度のナレッジコミュニティはこれを記念し、福岡市のこれまでの30年の変化を様々な切り口で振り返るシリーズを、4回に分けて行っております。

シリーズの締めくくりは、福岡市の国際化について元URC主任研究員山下永子さんにご講演いただきます。

10年前、山下さんは「福岡市におけるアジア政策の過去・現在・未来」について2年にわたって研究され、研究成果を3冊の報告書にまとめられました。今回のナレッジコミュニティのチラシも、当時の報告書の色に合わせています。

この度山下さんは、その後の10年の変化を付け加え、長さ4メートルの大きな年表を作成されました。これを基に福岡のこれからの戦略についてご参加の皆様と一緒に考えていく予定です。皆様のご参加をお待ちしています。

②URC設立30周年記念 企画展開催中

資料室では、ただ今標記企画展を開催しています。

URCの自主研究、総合研究の最終報告書を中心に、APCの研究成果とともに資料室入り口に展示しています。URCの研究成果を一挙にご覧いただけますので、この機会にお読みくださり、ご理解を深めていただけたら幸いです。

また、URCのOB、OGの方々には報告書を眺めて、当時の思い出を懐かしく振り返ってみてはいかがでしょうか？

なお、この展示は4月いっぱい開催の予定です。 (山崎三枝 司書)

申込み締め切りは、3月7日(木)当研究所必着です。

開催情報

【日 時】平成31年3月11日(月)

15:00~16:30 講演・意見交換

【会 場】福岡アジア都市研究所 会議室

(福岡市中央区天神 1-10-1 福岡市役所北別館 6階)

【定 員】30名 ※先着順受付

【お申込み】EメールまたはFAXで、①氏名・②所属・③電話番号・④Eメールアドレスをご記入のうえ、下記連絡先までお申し込み下さい。

(メール件名:平成30年度 第4回 URC ナレッジコミュニティ参加希望)

E-Mail : [library@urc.or.jp](mailto:library@urc.or.jp) Fax : 092-733-5680

\*ご不明な点は092-733-5707までお尋ねください。

(山崎三枝 司書)



## ◆URCニュース

### ①平成30年度・第3回 都市セミナー

#### 「食文化から福岡の魅力を考える」を開催します。

福岡の魅力の一つとして、「食」があげられることは衆目の一致することです。また、おいしく、安全で、豊かな「食」が市民の生活の質の向上にも、都市の成長にも大きな影響を与えていると思われます。

今回の都市セミナーでは、福岡の食文化について、多様な視点からその魅力について語っていただきます。まず福岡の食文化がどのように発達し、変化してきたのかなどについてお話し頂きます。そして、「食」は健康との関連性が深いことから、健康な都市づくりのために必要なことなどについてお話頂きます。

まず、(株)ふくや代表取締役社長の川原武浩様に、「福岡の食文化と歴史、地域との連携」と題してご講演頂きます。続いて、URC 特別客員研究員で、福岡女子大学名誉教授・奈良女子大学特任教授の早渕仁美先生に、「健康な都市福岡へ ～食からのアプローチ～」と題し

てご講演頂きます。

後半は、FUKUOKA NOW 編集長のニック・サーズ様と福岡商工会議所産業振興グループ長の田中大輔様にもご登壇頂き、パネルディスカッションを行います。

セミナーの申込み方法や詳細内容等は、URCのホームページや告知チラシをご覧ください。

申込み締め切りは、3月22日(金)当研究所必着です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

開催情報

【日 時】平成31年3月26日(火) 13:30~16:30  
(開場 13:00)

【会 場】福岡アジア美術館8階「あじびホール」  
(福岡市博多区下川端町3-1)

【定 員】100名(先着順)、参加無料

(山本美香 主任研究員)

### ②「Evolution Championship Series Japan 2019

#### (通称：EVO Japan 2019)」が開催されました。

2019年2月15日は福岡のeスポーツシーンとしては記念すべき日になりました。格闘ゲームのワールドカップともいえるeスポーツの国際的な祭典「Evolution Championship Series (通称：EVO)」が福岡国際センタ

EVO JAPAN2019では6つの種目でしたが、その中の「鉄拳7」という種目では、最終トーナメントの8人中、日本人は1人(長崎出身)で、優勝者がパキスタンの方という国際色豊かな戦いでした。



優勝カップを掲げ多くの人に祝福される選手

国や地域を超えて熱狂して選手を応援し、その戦いに観客が涙する姿はまさにスポーツで初めて観戦した多くの方がゲームに対する見方を変えたようです。

EVOのような国際的なeスポーツイベントが地方で開催されるのは極めて異例なことで、多くの外国人選手や観客が福岡を訪れたことから今後eスポーツによる新しいタイプのMICEが期待されます。

EVO JAPAN2019 公式ホームページ：

<https://www.evojapan.net/2019/>

(中島賢一 調整係長)



欧米、アジア、オセアニアなど世界中から選手が集結

一で行われました。2,500人を超える選手が世界中から集まり、3日間の来場者数が東京大会の12,000人を超える13,000人となり、会場は熱気に包まれました。

### ③ 福岡市国際視察研修受入報告

2019年2月分の国際視察研修について、韓国から1件(14名)、タイから1件(60名)を実施いたしました。

韓国からの訪問団は高齢者及び障がい者のための福祉施設に関する取組み、タイからの訪問団は都市計画・公営



タイ：タイ国家住宅公社訪問団

韓国：ハンセ大学看護学科訪問団

住宅・緑化政策に関する取組みについて視察研修を実施しました。

特に、視察研修後に実施したアンケート調査によると、各訪問団からは「親切な説明が良かった」、「とても有益だった」、「温かい歓迎が良かった」、「素晴らしい場所とプレゼンテーションが良かった」などの満足度の高い声が上がっていました。

写真：URC撮影（李英雄 国際視察研修担当）

#### ④ 研究紀要「都市政策研究」第21号投稿論文の募集について

「都市政策研究 第21号」に掲載する投稿論文を募集しています。論文の内容は、都市政策に関連する研究成果をまとめたものとし、特に、福岡市の都市政策に対する何らかの提言的な内容を含むことが望ましく、新規性または有用性のあるもので、原則として未発表のものに限ります。

投稿期限は、査読を要する論文は2019年8月31日、査読を要しない論文は2019年9月30日です。投稿資格は、原則として賛助会員、福岡市職員、及び当研究所職員ですが、大学の研究者等で編集委員会が認める場合は

この限りではありません。

投稿要領は当研究所ホームページに掲載しています。なお、投稿を検討・希望される場合は、6月末日までにご連絡をお願いします。

また、皆様のお知り合いやお近くに論文を発表されたい方や、興味がありそうな方がいらっしゃいましたら、ぜひご案内ください。投稿をお待ちしております。

【専用メールアドレス：[toshiseisaku@urc.or.jp](mailto:toshiseisaku@urc.or.jp)】

（山本美香 主任研究員）

#### ◆今月のおすすめ：f U+19号 “No Sports, No Life”

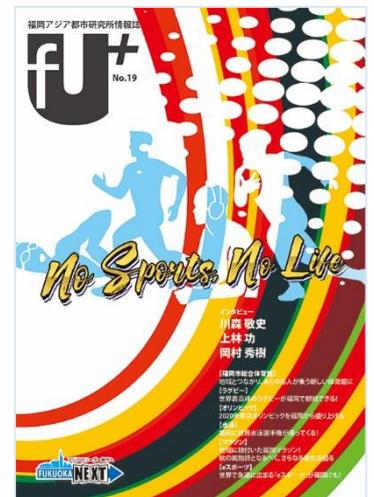
今まであまりスポーツに関わってこなかった筆者ですが、“No sports, No life”と題して、スポーツについて特集をしました。そこで、まずf U+を制作するにあたり1回目の話し合いで、“スポーツの定義”って何だろう？からでした。

平成23年に制定された「スポーツ基本法」においては、スポーツは世界共通の人類文化であり、国民が生涯にわたり心身共に健康で文化的な生活を営む上で不可欠なもの。スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利と定義されています。

スポーツの語義は時代によって多種多様化してきた歴史があり、「スポーツの定義とは〇〇です。」と言い切るのは極めて難しいのですが、本来、ウォーキングやジョギング、登山といった誰もが楽しむことのできる心のオアシスのようなもので、リラクゼーションも含めたものだと思えます。そして今、普及が進んでいる“e スポーツ”などのマインドスポーツも浸透してきています。2021年までの3年間に、福岡では

様々な世界レベルの大会が開かれ、身近に世界レベルのスポーツを見るチャンスが、たくさん訪れます。

これを機に、スポーツ観戦やスポーツを始める人が増えてほしいと思い、今回のf U+は、スポーツ特集をしました。冊子は、当研究所にて無料配布していますので、ぜひ手に取って一読ください。またご意見などありましたら、お聞かせください。



（足立麻理子 総務課）

#### ◆特別寄稿 \*一人一花の楽しみ\* 最終回 花に寄り添い、暮らす楽しみ

路地を歩くと見かける風景が好き。軒先に綺麗に並んだ植木鉢に小さな花の蕾が自慢げに空を見ている。亭主が卵の殻を鉢の上に並べ、丁寧に葉を触り様子を診る。幼子が傍の桶の水で遊ぶ。

園芸のルーツだ。いや、園芸男子の大先輩の姿だろう…。私の家には日当たりのよい小さな花畑が母の楽しみの場所だった。「今日はお婆ちゃんのお命日だから

水仙を6本袴のところから切ってお供えて、おばあちゃんが喜ぶよ。」とか「小葱を2本人数分袴の上から切ってきて、お味噌汁に使うからね。」など、知らず知らず算数のまねごともしさせられていた。仏様の花と日々の野菜は手作





花教室のポスター (35年前)

りで補充していた。アサリや豆腐、魚や、野菜や花売りのおじさんお婆さんもリヤカーや自転車で、通りで小さな商いをしていた昭和の暮らし。私の小さな頃、ほっこりの暮

らしを懐かしく思い出す。

そう、時には新聞に巻いた花を学校に持たされたりもしたな。孫が学校に通い出し、私も時々母と同じことを真似ている。花の名前を添えて持たせ、水替えまで頼む。大丈夫かなと思いつつながら… マンション暮らしで土に触れる機会がトンとない日々になり、孫たちの世代は「花」のある暮らしがあるのかなと少し悲しくなる。パソコンやゲームなど遊ぶことも変わり、コンクリートに溢れた中で育ち、泥んこ遊びも知らない。60年の間に、花や緑を楽しむ暮らしが見事に無くなった。

そんな、平成の終わりに突如現れた、一人一花運動。福岡市民157万人が一花植えたら157万本の花溢れるフラワーシティになる。市長旗振りで始まった「一人一花」は「花で持続可能な共創のまちづくり」を謳う2年目となった。市民主役の「花のおもてなし」も一人一花運動の大きな目的。

子ども達はどのように関わり、花への関心が芽生えるのかも気になるころだ。157万人の一花、それぞれの心に一花が宿ったらどんなに素敵なことでしょう… 花溢れる美しいまちを夢見る。

ところで、あなたの一花は何でしょう？直ぐに浮かぶ花がありますか？好きな花は何かしら…？

ちなみに、私の一花は「蓮華草」。大好きな花は小さい頃の思い出の花。家の前が田んぼで春先に一面の蓮

華畑が現れ、毎日遊んでいた。稲刈りの後の田んぼは私たちの遊び場だった気がする。よく見ると蓮華草は花姿が蓮華で小さな仏様が居られるようで有難い。葉っぱもつるの姿も大好きだ。私の心の花だ。神様ほどの植物も花と葉姿の組み合わせをととても素敵に創られていて有難く感謝する。



蓮華畑

花に関わる仕事とボランティアで日々楽しく過ごし半世紀が過ぎた今、花好き仲間と立ち上げた「環境演出家協会」のミッションは「自らの暮らしの環境を見直し演出することで、地球環境を守る」・「未来へ美しい地球(ほし)を遺す」と鼻息荒い。スタートアップのメンバーに20年前のフラワーアップの仲間がいることも頼もしく心強い。「世代間交流で自然環境保全を学び、日々の暮らしで実践する」私の役目は「花のある暮らしを楽しむ」ところだ。これから一人でも多くの人の「心とくらし」に「一花」を宿して貰い、花の素敵を共に楽しむ、わくわくの仲間づくりが始まる。

URC資料室だよりの投稿は3月号で終わりになります。1年間本当にありがとうございました。

写真提供・執筆:

福博:花まち研究会 会員 きむらみえこ(環境演出家®)

### 編集後記

年度末、お忙しい時期とは思いますがURCでは、ナレッジコミュニティと都市セミナーを開催します。ナレッジコミュニティは30周年記念企画の最終回、是非多くの方にご参加いただきたいです。もちろん、記念展示もご覧ください。

都市セミナーでは福岡女子大で多くの優秀な人材を輩出されたURC特別客員研究員で、現在国立大学法人奈良女子大学特任教授の早淵仁美先生にご講演いただきます。こちら、多くのご参加をお願いいたします。

特別寄稿できむらみえこさんが大好きな花としてご紹介くださった蓮華草ですが、私も大好きです。嫁いだころ、家の前は田んぼで、春になると一面の蓮華草で覆われていました。蓮華を植えなくなってからも、しばらくは米作が続けられ、娘や孫がカブトエビを見つけたり、オタマジャクシやカエルと戯れる様子に目を細めたり、いたずらが過ぎると「田んぼに捨てるぞ!」と脅したり…楽しかったのですが、昨今の宅地化の波は避けられず、昨年埋め立てられ、とうとう住宅になってしまいました。改めて失われた花や緑の存在の大きさを痛感するこの頃です。

「URC資料室だより」の発行は、今号で終わります。2010年5月No.27からほぼ月刊で発行し、2019年3月No.123まで、長い間ご愛読くださった皆様、ご寄稿くださった皆様に心から御礼申し上げます。

4月からは「資料速報」で「今月のおすすめ」「URCメディア紹介情報」とともに新着資料の紹介を毎月行ってまいります。また、新たな編集スタッフにより「URCニュース」(仮称)を年4回発行してまいりますので、引き続きご愛読くださいますようよろしくお願いいたします。(崎)